

## 7月17～18日 大杉谷・大台ヶ原

若林 憲治

|  |   |        |                       |        |    |        |
|--|---|--------|-----------------------|--------|----|--------|
| 山名   | 大杉谷→日出ヶ岳→大台ヶ原                             | 山行名    | 例会                    |        |    |        |
| ルート  | 大杉谷登山口→桃ノ木山の家→日出ヶ岳→大台ヶ原                   |        |                       |        |    |        |
| 山行日  | 2021年7月17日(土) 18日(日)                      | 天候     | 17日 曇り～小雨<br>18日 雨～小雨 |        |    |        |
| 参加者  | CL: 若林 SL 渡邊<br>男性: 山下 木元 森本<br>女性: 高橋 蒲田 | 合計:    | 7名                    |        |    |        |
| 大杉谷登山口⇒桃ノ木山の家<br>桃ノ木山の家⇒日出ヶ岳⇒大台ヶ原<br>   |   | コースタイム |                       |        |    |        |
|  |   | 地名     | 時:分                   |        | 地名 | 時:分    |
| 大杉谷登山口   |   | 着      | 12時00分                | 大台ヶ原   | 着  | 15時35分 |
|  |   | 発      | 12時20分                |        | 発  |        |
| 大日嶺  |   | 着      |                       | 日出ヶ岳   | 着  |        |
|  |   | 発      | 12時55分                |        | 発  | 14時50分 |
| 千尋滝  |   | 着      |                       | シャクナゲ平 | 着  |        |
|  |   | 発      | 15時00分                |        | 発  | 13時50分 |
| 平等嶺  |   | 着      |                       | 崩落地    | 着  |        |
|  |   | 発      | 17時15分                |        | 発  | 9時00分  |
| 桃の木山の家   |   | 着      | 18時20分                | 七ツ釜    | 着  |        |
|  |   | 18日発   | 6時30分                 |        | 発  | 7時15分  |
| <p>前日までは早朝に掛けて大雨も17日当日から関西地区は梅雨明け宣言 天気への期待感が必然的に高まり同行者2名(晴れ女性)の天気予報者も晴れを予測 新田辺駅に全員集合後三瀬谷駅に予定通り10時14分到着後登山バス会社の社員が検温 全員問題なくバス乗車1時間30分後の12時00分大杉溪谷登山口に到着20分後雨具なしで登山開始。</p> <p>日本三大溪谷だけ有り宮川(大台ヶ原を源流に伊勢湾迄流れる)の景観を楽しみながら遡上桃の木山の家に予定時間より少し遅れるも18時20分到着 服やリックに付着しているヒルを除去後 檜風呂に入浴 19時過ぎエビフライの夕食を頂き20時30分消灯も川の水量が多く水の音で寝付く迄時間も疲労もありいつの間にか全員爆睡。宿泊者が少なく密にも成らず幸い。 18日(日)5時30分朝食 6時30分登山開始も朝から雨 三重県は梅雨明け宣言も南部地区のみ(大台ヶ原)雨 やはり大台ヶ原は日本一の多雨所を実感。 桃の木山の家からの遡上コースは岩場や鎖場が多くあり 苔、落ち葉、雨 の為岩場が滑り水量も多くて川幅も広がり真横に宮川が迫り水の迫力を体感しながら改めて危険な箇所には必ず鎖場有り助けをかりながら有難さをも感じた。鎖は大半ま新しく何箇所もある吊り橋も本当に良く整備されていた。水量が多く瀑布の迫りに圧倒され迫力を超え恐怖感を感じるほどに化していた。宮川の遡上でかなり神経を使い体力も消耗 雨によるリックも重くなり日出ヶ岳(1,695m)の最後の登り階段(750段)で疲労困憊も大台ヶ原発の奈良交通最終バス乗車の為M氏先行交渉15時30分に間に合わせる為滑り込みセーフ事なきを得た。計画通り全員無事に帰宅 大杉谷登山は秋の紅葉時期がベストシーズンとの桃ノ木山の家ご主人のアドバイス有り</p> |   |        |                       |        |    |        |
| ヒヤリハット 無し  |   |        |                       |        |    |        |
| ヒル被害 4人/7人   |   |        |                       |        |    |        |

感想

若林 憲司

年間雨量日本一の地への山行 近畿地方は16日梅雨明け宣言 自称 晴れ男 晴れ女 快晴への期待感は必然的に高まった。7時前新田辺発に乗車時車中からの空は厚い雲に覆われていて嫌な予感。12時00分大杉谷登山口に到着登山開始 幸い雨に合わず宮川の景観を楽しみながら遡上本日の宿泊地で有る桃の木山の家に着 道中何度となくヒル駆除対策も結果悩まされる事となる。到着時間が遅れた事もあり 食事前檜風呂にて汗を流すも風呂上り足首から出血 宿のオーナーより止血のアドバイス(たばこの葉をバンドエイドにふり付け)傷口に貼りつける事で不思議と止血する事が出来た。先人の知恵である事を知る。今回のメンバー4人/7人がヒル被害にあう事に成った。

18日(日) 6時30分 桃ノ木山の家出発 晴天の期待も裏切られ早朝より雨 宮川の水嵩も増し、途中七つ釜を越えた所に渡れない箇所が発生するとアドバイスもかろうじてこの難所は渡り切る事が出来た。日本三大の溪谷美を楽しむ予定も、雨による足元が滑り鎖場難所の連続でコースタイムは大幅にオーバーも滝・吊り橋の景観は楽しめた。1,400mの高低差は正直厳しかった。

大杉谷の宮川から離れて日出ヶ岳に向う道中 シャクナゲ坂 シャクナゲ平は名前の通りシャクナゲが群生しており5月から6月には嘸かし目の保養になるのは疑いなし。

シャクナゲ平から日出ヶ岳の1.3kmは750段の階段が待ち受け疲労もピークになる。

日出ヶ岳から大台ヶ原バス停までは約2.0km(コースタイム40分)コースタイム内で歩かなければ15時30分のバスに乗れない。全員最後の力を振り絞りM氏が先行 バスを待たせ数分遅れで無事に奈良交通の最終バスに乗車出来た。久し振り雨天の中で色々経験もできたが溪谷美を満喫するに至らず未練が残った山行ではあった。

この時期の大杉谷から大台ヶ原山行ヒル被害を考えれば個人的には避けるのが良いと思うベストシーズンは秋の紅葉時期であるとの事で次回チャンスがあれば晴天の下紅葉時期に再挑戦もありかな? 今回ご参加の皆さん雨の中での山行本当にお疲れ様でした。

山下 隆

大杉谷は以前から是非とも行ってみたいところだった。日本三大溪谷と呼ばれていて、有名な黒部溪谷は自分の体力・技術では行けないし、もう一つは新潟県十日市町の清津溪谷とのこと。三重県と奈良県の境にあるこの大杉谷は近場でもあるし、行きやすい。約15年程前に、年間計画にエントリーし、実施日が近づき、計画を立て始めたら、その前年の台風で桃ノ木小屋は流され、行けなくなっていた。

(今回、宿の主人に聞いたところ、小屋は流されなかったが登山道やツリ橋の崩落等で閉鎖されていたとのことでした)。コロナの影響で参加を中止した方が多かった中で、是非とも行きたい7人での参加となった。

初日の標高差はほとんど無いが、翌日の標高差1165mの登りは自分には限界に近い。4年前の山行記録をみて、何とか行けそうな気がしてきた。しかし、以前に計画した時より体力は落ちているので、自主トレは昨年より励んで参加の日を迎えた。CLからはゆっくり行くからとの優しいお声!この機会を逃すと15年来の夢も消え失せてしまう。悪いことに前日、首筋にヘルペスが発症し、医者からは大人しくして下さいとのお達し。行きたい意思と医者からの忠告との葛藤あるも当然意思は曲げられない。

天気予報では梅雨明けギリギリで紀伊半島全体は晴だが、大台ヶ原周辺だけが雲がかかっている。CLは台風以外なら決行すると固い意思。梅雨の名残で勇壮な滝が見られるのではと前向きに考えて当日を迎えた。初日は曇りですんだので、溪谷や滝の写真も沢山撮れたが、梅雨のなごりで登山道は濡れていて危険そのもの。歩き始めてすぐにも鎖場。4年前の報告の写真はここで撮ったのかと思いきや、鎖場は延々とあり、両手つかみの横歩き場所もあり、慎重に歩かないと命に係わる所が多い。道々「一歩ずつ歩けば安全」との標識は処々にある。途中名瀑のある所には東屋があり、そこから見る滝の迫力はものすごい。人を一切寄せ付けない勢いだった。赤目48滝に何度が行ったが、それはけた違いの迫力だ。溪谷と並行しての林道歩きを想定していたが全然違う。予定より大幅に遅れて桃ノ木小屋に着し、ホ

ットした。

ヒルの話も忘れられない。CLからはヒル対策をしてくるよういわれていたもので、ハッカ油スプレーを用意し、帽子や足元・胴回りにスプレーし後ろを歩く方に不快感を与えたかもしれない。それでもヒル被害者1号となる。仲間にヒルに詳しい方がいて、彼も準備万端。早速薬剤をスプレーしてくれて、大事には至らなかった。宿についた時に体や荷物にヒルがついていないか点検したが、奴らも必死で隠れていたらしく、夜中にはい出して来て、小生の柔肌から断りもなく失敬し、朝起きたたら、マルマルと寝そべっていた。昨日は病院で採血、今日はヒルに献血と笑えない話だが7人の仲間の内4人はヒルに献血となる。記念のヒルの足跡は暫く残るようだ。

翌日の8割は雨の中。滝はもう猛爆で、地響きと水煙を立ててますます勢いを増し、川岸を歩くと流れの勢いは尋常ではない。昨日は清らかな溪谷だったが暴れ溪谷だ。写真を撮りたいが、雨の中ゆえままならない。2004年の台風の傷跡らしい数mの岩がゴロゴロしていて、比良の青ガレの数倍の登りなど険しい道のりが続く。ようやく堂倉避難小屋に着き昼食。なぜか避難小屋に鍵がかかっている、中に入れない。なんじゃコリヤ！

避難小屋からの道のりは溪谷から離れ、頂上の大日岳まではシャクナゲの木に囲まれた道が延々と続く。途中から雨が上がり気分も明るくなるも、予定の時間より大幅に遅れているので、予定のバスに乗れるか心配になる。CLは引っ張るように先頭を歩く。当方はここで得意のツリが出たら数分のロスになるのでツリの恐怖に襲われて、事前に68の世話になる。無理な足の使い方は禁物だ！途中から、バス停まで走ってくれた仲間のお陰でバスの出発時間を少し遅らせていただき助かった。苦しい中にも15年来の夢が達成できた。CLを初め、ご同行の皆様お世話になり有難うございました。

渡邊 久美

10年前、主人が大杉谷登山を計画しようとしたのですが、2004年の台風被害で登山道が閉鎖されてお迂回路で溪谷を見ずに行っても意味がないと中止しました。主人はもう登山をやめてしまったので、これは良い機会と思い参加しました。

大杉谷は思っていたよりも凄い溪谷でした。今までにこれより大きい溪谷には行った事ありません。長雨の後で水量も多く滝の迫力が半端ないです。これほど大きい滝が次々と現れるとは！思わず写真を沢山撮ってしまい、歩行に時間がかかってしまいました。次々に現れる滝、吊り橋。これが大杉谷なんだ！と感動しました。2日目は朝から雨でびしょ濡れになりましたが、事故もなく無事下山出来た事に感謝します。同行の皆さん、ありがとうございました。

蒲田 史

雨上がりの1日目。バスの中でヒルと滑落に注意するようにと説明。ヒルに気をつけながら、鎖場も思っていたよりもずっと多く、慎重に歩きます。滝、川と雄大な景色を見ながらの山歩きで楽しい1日になりました。おまけにヒルにも咬まれました。

2日目、夜中から土砂降りだったようで、水嵩もかなり増していました。前に進めない時は宿に引き返すようにと宿の方から。道は川のようになっていたり、川になったところを引き上げてもらうように渡ったり。石は滑るし、滝は怖いほどの水量です。レインウェアも靴の中も雨やら川の水でぐっしょり。川から離れ山に入った時はほっとしました。初めての宿泊の山行、盛り沢山の経験をさせていただきました。

ご一緒させていただいた皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

高橋 有紀

楽しみにしていた大杉谷、やっと思行けました！当初は道幅30cmない所を鎖をつかみながら進む

中級者向けと聞き、初めての小屋泊で2日続けて歩けるかと不安でしたが、ゆっくり歩きますとのこと、行きたい気持ちが勝り申し込みました。7つの滝と11本の吊り橋があり、さすが日本三大渓谷とあって自然の美しさを満喫しました。すぐ鎖場があり持ち方を教えて頂きました。足元が濡れて滑るので一歩ずつ確認しながらゆっくり景色も堪能しました。

2日目は朝から大雨。台風みたいと笑いながら話していましたが、桃の木小屋の人が「水量が多いので七ツ釜滝までは十分気を付けて危険だと思ったら引き返して下さい」と話をされた時は気持ちが引き締まりました。恐る恐る出発。危険な箇所は沢山あり鎖をしっかりとちながら慎重に進みました。七ツ釜滝を過ぎて次の吊り橋まで来たら戻らなくて大丈夫とのことホッとしました。でもまだまだ先は長く荷物も靴も自身も雨でずっしり重く肩に痛みを感じた時、Yさんの「もう足を前に出しているだけ」という言葉に私だけじゃない…と救われました。自然の美しさと怖さを知る貴重な体験ができました。

リーダーに「こんな体験をしたらアルプスでも何処でもいけるよ!」と言って頂き自信になりました。シャクナゲの咲く5月か、黄色に染まる原生林の森が美しい秋に再チャレンジしたいと思います。一緒に行って下さった皆様、お世話になりました。

木元 隆司

実は大杉谷については知らなくて、大台ヶ原に行ってみたくて、参加申し込みをしました。1日目は三重県側から大杉谷へ。岩壁に作られた道。危険な場所には鎖を張ってあるが、岩が濡れて滑りやすい。すぐ横の川は、ゴーゴーと音をたて荒れ狂ったようにもの凄い勢いで流れている。転落すれば、そのまま川に落ち、確実に激流に飲み込まれる。滝を見ながらゆっくり渓谷を歩くものと思っていたが、これはなかなか大変と慎重に歩く。加えて、ヒルが多くて被害者も多数。しかし、岨と呼ばれる巨大な岩、水量の多い滝は迫力があり圧倒される。そして原生林と苔が美しく神秘的でもある。予定よりかなり遅れて、桃の木小屋に到着。携帯の電波が届かず連絡できなかったが、無事夕食にありつけて、ほっとする。

2日目は強い雨の中、小屋の人から増水して行けないようだったら戻るように言われて出発。いたるところが滑りやすい。小さな渡渉も多くあったが危険な場所であり、靴が濡れるのをかまっていられない。道も水がたまっていて歩きにくい。滝の水量が半端なく、まるでダム放水の様相。水しぶきが舞い上がって、すさまじい。大台ヶ原(日出ヶ岳)は残念ながら雨で何も見えず、最終バスに間に合うよう、ただひたすら歩いた。先に行って、バスに待ってもらおうと頼んでくれた森本さん、感謝します。

思っていた以上に大変な山行でした。疲れましたが、思い出に残るいい経験をさせてもらいました。なので、雨の大杉谷はもういいです。晴れた大杉谷と大台ヶ原は見てみたいけど。それにしても、山下さんはすごいですね。私が80歳になったとき、このコースを歩くのは絶対に無理と断言できます。CL、SLをはじめ、皆さん、お世話になりました。ありがとうございました。





